

令和6年度 第1回看護学科教育課程編成委員会 議事録

日時：令和6年10月29日（火）15：30～16：30

場所：新館 201 教室

委員出席者

- A 山口県看護協会 会長
- B 看護学科実習病院 看護部長
- C Y I C看護福祉専門学校 看護学科 卒業生

学内出席者

- D 校長
 - E 副校長
 - F 事務長
 - G 看護学科 学科長
- 書記：看護学科教員

1. 校長挨拶

割愛

2. 委員自己紹介

3. 議事

議長：規定第6条によりEが行う

- (1) 令和5年度卒業生及び職場の上司アンケート調査結果・・・資料Ⅰ－1、資料Ⅰ－2
- (2) 令和5年度卒業生ホームカミングデー実施結果・・・資料Ⅱ－1、資料Ⅱ－2

G：(1)(2) 続けて資料に沿って説明

<質疑応答>

B 委員：7月という時期で病院では少しできることが増えたといううれしさを感じる反面インシデントが増えて不安が増す時期ということが学校の実施結果にでてきているのではないか。この内容を職場に伝えていきたい。

E：ホームカミングデーは介護福祉学科から始まり、その後看護学科も開催し始め、両学科同日開催している。すべての卒業生が参加しているわけではないが、楽しみにしている卒業生もいて、出張で来ている卒業生でもいた。C委員の頃はどうか。

C委員：私の頃は、ホームカミングデーはあったと思いますが、私は参加していない。入職4か月という時期は、悩みが多い時期なのでタイミングとしてはとてもいいと思う。参加した学生はとてもよかったと話していた。職場で話すことと学生時代の友達に話すのは違うと思うのでとてもいい取り組みではないかと思うので、続けて行ってほしい。

- A 委員：アンケート回収率が昨年度よりよかったのはなぜか、工夫された点を教えて頂きたい。
- G：昨年度はフォームだけでアンケート調査したが、回答者側から入力しづらい、パソコンに取り込みづらいという意見があった。今年度は上司アンケートは、オンラインと紙媒体の郵送を組み合わせで行ったことが回収率向上につながった。
- A 委員：上司のアンケート回収率が上がったことはとても良かったが、卒業生の参加率が低いのは、勤務時間帯もあるのではないか。この時期にアンケート調査があるのは離職率が高い時期という点からも離職防止のためにとってもよい事業ではないか。悩んでいる時期に相談場所があるということはよい。勤務の事情などすべての人が参加できていないので、1回だけの開催なのかもう1回どこかでという工夫をしていくのか検討していただきたい。
- E：コロナ時期は3学年同時に集まったこともある。3学年同時に行うと、身近な先輩の体験が聞けて将来像が描きやすいメリットもあった。上司の方には結果を返すことをしている。引き続き継続していく。
- 議題（1）（2）について、全員一致で承認した。

（3）令和6年度看護学科教育計画の進捗状況

G：資料Ⅲに沿って説明

<質疑応答>

B 委員：休学者のなかに単位が足りずに卒業できない学生はここに入らないのか。

G：入らない。単位だけでなく、行事なども抜けていくので、休学者はクラスに入りづらくなるので、学生支援を続けている。学生1人では学習継続や登校が難しい。チャットや電話連絡で支援している。

E：新カリキュラムが始まって3年、学生以上に苦労しているのは教員だと思うが、電子テキストを導入して学科長としてはどうか

G：電子テキストだけでは心細い。紙媒体と併用して使用している。

E：3年生は電子テキストを有効に使っているが、1年生は高校で電子テキストを導入しているところが少ないので慣れていない工夫しているところがあるか。

G：1年生はタブレットの使い方が多彩で、プリントをタブレットに取り込んで整理している学生が多い。学校の連絡事項もアプリを使っている。電子テキストを使用することで用語や知識もテキストのなかで覚えられるというメリットがある。

E：社会人の中には紙媒体がいいという学生もいるが、電子テキストと両方活用するというのを引き続き継続していく。

議題（3）について、全員一致で承認された。

4. その他

- C 委員：新入職員をみると職員や患者とコミュニケーションをとるのが難しい傾向がある。実習ではどうでしたか。
- G : 2名入職していると思うが、1名はコロナで実習に十分に行くことができず学内実習だった状況がある。1名はコロナの影響なく実習している。
- C 委員：本人たちはがんばってはいるが、休むこともある。まずは病院に慣れて積極的にコミュニケーションをとってもらえるように関わっていく。職員側も気をつけて関わろうとは思いますが、知っておいていただきたい。
- G : 緊張感もあると思うので温かい目でみて頂きたい。実習先の指導者に学校に来てもらって学習状況をみてもらう計画を立てている。
- A 委員：緻密な学習計画、緻密なチェックで過酷な学生生活だなという印象である。国家試験の合格は難しい時代になっている。コミュニケーションは学生時代や病院でも必要なものだが、その人のベースにあるものが難しくしていることもある。それをどのようにしていくかだと思う。細やかな指導が適宜行われている。あとはその人の目標が自分にあったものになっているのか寄り添って指導していくことが大切ではないか。
- B 委員：実習協力できるので引き続きお願いしたい。受け入れ側もしっかりしどうできるようにしていきたい。

第2回教育課程編成委員会は令和7年2月に開催予定